

2022 年度 福祉助成金(活動助成) 成果報告書

ふりがな	とくていひえいりかつどうほうじん きゃっぷぷろじえくとおかやま	
団体名	特定非営利活動法人CAPプロジェクトおかやま	
代表者名	山下明美	
連絡先	住所	岡山市北区広瀬町 2-11
	TEL	080-6339-9740
	E-mail	cap_okayama@hotmail.co.jp
	URL	http://www.cap-okayama.net/
設立年(西暦)	2021 年	
助成活動名	誰もが安心して暮らせる施設(民間シェルターを含む)の運営事業	
助成額	150 万円	
活動内容	目的	<p>コロナ禍において、一人親家庭や子育て家庭の貧困はひっ迫し、ステイホーム等の生活様式の変化によるDVの増加、面前DV等の虐待による被害児童の増加が課題となっている。当法人主催の「しゃべり場」や「子ども食堂」等でも相談は増加し続けている。母子が安心して生活の立て直しを考えることのできる居場所や、住まいの提供が急務である。しかし、母子で緊急避難ができる場所、その後の自立した生活への伴走支援が受けられる場所は限られており、決断を先送りにして状況を悪化させている例もある。シェルターとして、365日24時間対応できる仕組みや拠点をづくり、対象者一人ひとりに寄り添う伴走支援を実施していきたい。</p> <p>また、ストレスの多い現代、子育て中の人を含めた多くの人が安心して居場所や話を聞いてもらえる場所を求めている。そうした地域の誰もが来場できる「子ども食堂・子育て広場・しゃべり場」などを開催することで、孤立を防ぎ地域全体の福祉の向上に努めていきたい。</p>
	内容	<p>施設の2階は、シェルターとして緊急避難場所2世帯分の個室を確保し、1階は共用施設として「子ども食堂・子育て広場・しゃべり場」等、地域に開放し多様な人々が顔を合わせ情報交換もできる場とする。また1階は、緊急避難されている人がリビングとして食事し、会話し、自立への相談支援の場とする。</p> <p>子どもと子どもを育てている人、及び地域の人安心して生活を送る一助としての「子ども食堂・子育て広場・しゃべり場」は、相談や気づき、憩いの場としての機能をもち、新たな生活を選ぶ方々には安全安心なシェルター機能・自立支援のための寄り添い支援の機能を有し、自立後も気軽に訪問できる場所として「子ども食堂・子育て広場・しゃべり場」に加え、フード&ライフドライブのような困窮家庭等への物資の配布拠点の機能も備える、多機能型の子育て支援施設を整備し、運営する。</p>
	成果	<p>国交省の令和3年度 住まい環境整備モデル事業にて改装を進めていた「CAPPO ハウスうめちゃんち」の改装が2023年1月に終了し、2月から実際にIFの居場所事業を開催している。その開設にあたって、橋本財団さんからの助成金を利用し、内部の設営に関わる諸々の準備が整った。また、シェルターについては、問い合わせもあり、今後の活動が予想されている。今年度は、居場所の開設、シェルターも持っているという広報に徹した一年。現在、少しずつ周知されつつある状況である。</p>
今後の課題と対応策	<p>今年度、橋本財団等の助成金や寄付によりシェルターも居場所も活動を始められる準備を整えることができた。</p> <p>また、実際に支援の場に立つ人へのスキルアップの講座についても継続して実施していき、当法人だけでなく、広く岡山で支援の場にいるスタッフの質の向上にも努めていきたい。これに関しては、岡山市女性がかがやく街づくり推進課より継続委託の連絡も入っており、実施可能な状況である。</p> <p>今後、24時間365日の伴走支援を考える時、人件費の確保が課題となってくる。次年度も橋本財団さんより100万円の助成や赤い羽根共同募金の地域ささえあい事業の50万円弱の寄付金の合わせて150万円ほどが現在の資金となっている。が、到底、人件費としては足りない状況である。さらにクラウドファンディング等の資金調達の動きを進めていきたい。</p>	



写真の提出

